

地域活動・就労支援事業所紹介

社会福祉法人 スプリングひびき

―新築・移転し活動スタート―

生活介護事業所

響 管理者 宮原 里美

平成7年、当時重度の障がいがある子どもたちが養護学校卒業後の行き先には入所施設、又は在宅の選択肢しかありませんでした。その子どもたちが生きがいを見つけて明るく楽しく通える場所を作りたいと重度重複障害児・者を持つ約10名の保護者と教師が集まり協議をしたのち、重度障害者通所活動施設を作る会を発足しました。

発足後まもなく、当時から地域に住む重度障害者支援の先駆的な取り組みをされていた、兵庫県「青葉園」の清水明彦氏を招き、勉強会を開催。佐賀市川久保町久保泉で民間住宅の倉庫（築後約80年）を無償で提供頂き、重度障害者通所活動施設『響』を開設。金立養護学校卒業の1名の通所者から始まりました。

無認可からの活動で、運営資金を得るため地域の企業・ご家庭からいらなくなった品物を提供して頂き、バザーを開催しました。また、バザー

と同時にカタログ物品販売も行ってきました。その資金を基にして平成14年に法人となり、利用者も9名と増えていきました。

現在の自立支援法の施行により、現状の規模では先々国からの補助金もなくなり施設としての存続も厳しい現状に直面しました。そこで、平成19年佐賀市内で無認可で運営をしていた作業所スプリングフィールド福祉工房と合併をし、多機能型の施設として運営していくことを決定。生活介護事業所 響（生活介護）・就労支援事業所スプリングフィールド（就労継続B型）として、再スタートをしました。

その際、法人として『地域』『根ざす』『自立』の3つの理念を掲げました。

・地域とは……本人が生まれ育った環境で、働く場所や友達がいるところ。近くにみんなで遊ぶところや、買い物す

る場所があるところ。
・根ざすとは……地域の人たちと情報交換や交流ができ、地域での役割をもつ。
・自立とは……安心して施設に通え、安定した生活をおくり趣味や余暇を楽しむ。

※右記理念は通所する利用者の方、職員も含めて話し合いのうえ決めたものです。

そして、この理念に合う場所はどこかと、協議していき現在の佐賀市高木瀬町に生活介護事業所 響を移転・増築することを決定しました。

建築にあたり、間取りや設備に關しても利用者がより使いやすく快適な空間になることを目指し、建築士・保護者・職員を交えての建築会議を何度も繰り返しました。高木瀬町の移転予定地の決定から約2年、その間様々な困難がありました。平成21年4月無事に生活介護事業所 響を建設することが出来ました。出

来上がった響は天然木のぬくもりと、広い廊下、吹き抜けのレクリエーションルームからたくさん光が入る明るい造りになっています。立ち上げから14年たくさんの方々の様な思いとご尽力のもと念願の施設が建ちました。これからは設備面だけでなく、利用者の方が毎日の利用をより快適なものにして頂けるよう、多くの方々のご指導・ご鞭撻を頂きながら、関係者一同一層精進していききたいと思えます。

